



2016年度東京バレエ学校スクールパフォーマンス
“風刺画家”レガート兄弟による
ユーモアに溢れた秀作

『人形の精』上演によせて

リハーサル指導 ニコライ・フォードロフ
(元ボリショイ・バレエ プリンシパル、
バレエ・プロデューサー)

レガート兄弟による「風刺画によるロシア・バレエ」(1903)
より、セルゲイ・レガート、ニコライ・レガート。

バレエ『人形の精』は、1888年10月4日、ウィーンにて振付家ハスライターと作曲家ヨゼフ・バイエルによって初演されました。同作は、のちに19世紀のバレエ作品の中でもっとも有名な作品のひとつとなり、ヨーロッパの主要な劇場で上演されるようになりました。

1903年のロシアでも、サンクトペテルブルク帝室劇場のダンサーのレガート兄弟、セルゲイとニコライが上演しました。この兄弟にとって『人形の精』は振付家としてのデビュー作になりました。彼らはウィーン作品をそのまま上演したの

ではなく、チャイコフスキーやドリゴ、ルビンシュテインの曲を挿入し、独自に振付を行いました。衣裳と舞台美術の担当はバクストです。初演は1903年2月にサンクトペテルブルクのエルミタージュ劇場で行われました。

バレエ『人形の精』は、ワガノワ記念ロシア・バレエ・アカデミーの生徒たちが、現在も同エルミタージュ劇場で上演しています。1989年にコンスタンチン・セルゲイエフが行った演出をニコライ・ツイスカリーゼが見直し、改訂しました。その際、レガート兄弟の振付を部分的に使用しました。

バレエの物語のストーリーはとてもシンプルで、舞台は小さなおもちゃ屋さんです。閉店した後、おもちゃ屋の住人である人形たちは人形の精を筆頭に毎日賑やかな夜を過ごしています。このバレエの中心は人形の精と2人のピエロによるパ・ド・トロワです。初演ではマチルダ・クシェシンスカヤ、セルゲイ・レガート、ミハイル・フォーキンが演じました。

今回東京バレエ学校の生徒たちに指導するときのリハーサル教師としての私の課題は、若いダンサーたちの才能を開花

レガート兄弟

画集「風刺画によるロシア・バレエ」(1903)の作者として歴史に名を残す。マリインスキー劇場バレエで働く仲間たち全団員を、悪意のない風刺画に仕立てた。



ニコライ・レガート (1869~1937) バレエ・ダンサー、教師、振付家、音楽家、画家。1922年からフランスとイギリスに住む。1925~26年にはディアギレフのバレエ・リュスで指導。ロシアではカルサヴィナ、クシェシンスカヤ、ワガノワ、フォーキン、ニジンスキーらが、イギリスでは、ド・ヴァロア、マルコワ、フォンテイン、アシュトンなどを教えた。



セルゲイ・レガート (1875~1905) バレエ・ダンサー、教師、画家。1898年からマリインスキー劇場の教師を務める。ニコライの弟。

させることでした。彼らと稽古をしていく過程で、彼ら自身がまず作り上げた役柄のイメージに、私はそれぞれの個性を生かすような工夫を加えました。欠点を克服したり、逆に長所を際立たせるような方法を詳細にわたって伝えました。

ピエロの人物像は、悲しさ、ナイーヴさ、グロテスク、楽しさ、こっけいなユーモアなどたくさんの要素を兼ね備えています。それらの要素を表現することにより、この役を演じるダンサーのアーティスティックな側面を成長させることができます。この役柄は、味が濃く、いろいろなビタミンがたっぷり入っているフルーツと似ているかもしれません。これらはこの若い年代に必要な不可欠なものです。

人形の精の踊りにはきわめて難しいパが含まれていますが、やはりここでもア

ーティスティックな側面、腕と胴体の美しいポーズどりが大事です。テクニックだけでは踊りこなせません。

パ・ド・トロワの踊りのパはどこも変えませんでした。私はユーモア、人形らしい少しグロテスクな動き、ほろりとさせるようなナイーヴなところを加えました。人形の精の洗練された踊りによって描かれる一幅(いっぷく)の絵を、2人のピエロのグロテスクなユーモアの額縁で飾るような、そんなイメージを目指しました。それと同時に、2人のピエロのソロのダンスは、恋する若者の競争のように見れば、と思っています。とある演劇の俳優がかつてこう言いました。「この作品を見たら、ユーモアのセンスがこれっぽっちもない人でも自然と笑顔になるだろう」と。

若い出演者たちの成功と、またお客様が喜んでくださることを、心より願っております。

(2016年8月)



レガート兄弟による「風刺画によるロシア・バレエ」(1903)より、左からセルゲイ・レガート、ニコライ・レガート、ドリゴ、「人形の精」初演プログラム。

